

第 19 回 シグマ^{研究}専門委員会議事録

日 時： 1966年3月1日(火) 11時～18時

場 所： 原研本部 第2会議室

出席者： 百田、飯島、五十嵐、桂木、中島、太田、高橋、塚田、浅見
(9委員)

オブザーバー： 安氏(東大)、八谷委員、岩城委員、

(以上12名)

配布資料

1. 第19回シグマ研究・専門委員会(運営委)議事予定
2. 第18回 ' 議事録
3. 第5回調査グループ会合議事録
4. 第34回熱中性子グループ会合議事録
5. 第10回炉定数グループ ' 議事録
6. 第1回炉定数ワーキング・グループ議事録
7. 41年度Σ委実行予算(要求)内訳
8. 40年度 ' 組織表
9. JNDC Newsletter No. 1 粗稿
10. INDSWG Document No. 111
・ Main Trends in Scientific Research Work on the
Measurement of Nuclear Physics Constants in the USSR, •
Obninsk, 1965
11. 原子力学会誌 Vol. 8, No. 1 (1966) 抜刷
「IAEA-INDSWG 第4回会合の報告」百田光雄
12. STEVE 関係プログラム作成状況報告：八谷雅典

・ JNDG Newsletter 試作版について(4-a)

(出席が遅れる予定の委員が数名いたため、順序をかえて議事予定(配布資料1)の4-aよりはじめた。)

このNewsletter 試作版については、「第18回運営委の席上決められた線に沿って、主査、飯島、岩城、中島、大野委員の話し合いによつて出された大綱にもとづいて作成された」との主旨説明があつた。(百田主査)

この程度のもをセットでそつくり原子力学会誌の誌面を割いてもらう方が利用しやすいのではないかという意見(塚田、八谷委員)もあつたが、(1)大学関係等で広く物理の分野の人も含めて当委員会の活動に直接参与したくとも、いろいろな制約から不可能となつている研究者に、役立てる。

(2)学会誌に記載されているものより詳しく国際的な会合の情報を提供する。

(3)海外から当委員会を日本の窓口とみて送付してくる文献資料のいについて逐次報告する。(4)関係者同士の親しみやすい内容のものとする、というよう

な希望を織りこむのに独自の不定期刊行誌があつてもよいという意見も多数あつた。編集刊行の作業量の面では、実際に試作版に一文を寄せられた岩城委員より、「今回の経験では1日間で仕上げたので、準備不足になり不満があるが、毎月というのでなければ、1週間あれば何かまとめることができるので、適当に執筆者を探すのは可能ではないか」という感想もあつた。結局太田委員の発案のように、「ゆくゆくは核データ・センターの活動となるという注を加えた上でVol.Noを仰々しく入れないで、1年間本印刷で試しにやつてみる」という線で意見の一致をみた。なお費用の点では、送料は原研に交渉する。印刷費は当委員会の印刷費を使うことになるが、技術情報部ともこの点で交渉してみる(主査)ということである。

1. 前回議事録確認 訂正条項なく確認された。

2-a 各グループ報告

各グループ責任者がそれぞれの会合の議事録等を参照して説明。

そのあと、質疑応答があり、とくに炉定数グループの活動方針として、ENDFの分担を決め、1万ポイントを主眼として作業をすすめると

いう点については、plottingが大へんなので、plotterを使用するわけにはいかないかという質問（五十嵐委員）があつたが、一応の経験を得るためにもplottingを個々人の手でやってみるより他ないという意見（桂木委員）があつた。

2-b NDCC (ENEA Nuclear Data Compilation Centre) との連繫について（主査より報告）

ENEA - NDCC 加入の予算は、本年4月からつく見通してあり、加入についての具体的事項は、目下事務折衝中である。

CINDA '65については、既に11部入手したが、なお14部追加請求している。先方にも~~金~~部が少ないため、5部のみ入手可能となり、先方は在仏の日本のOECD代表部に送つたので、いずれ日本に送られてくる予定。再版でき次第10部送つてくれるとのことである。Supplementは15部をやはり同じ経路で送付中とのことである。

なお関連して、SCISRS (Sigma Center Information storage and Retrieval System) のコピーも当方から請求すればすぐ送付されてくるものと了解するが、各人が個々に要求するよりは、まとめた方が先方も都合がよいと思われるので、主査まで申し込まれたいとのことであつた。

2-c 40年度予算執行状況

2月末現在の執行状況の報告があり、とくに旅費の残が少ないので、運営委は本年度は開催しない、各グループは3月に原則として1回として、予定を早期に主査まで通知して調整することになつた。

3-a 41年度委員会活動体制について

組織と実際活動の面とで一致しない点の是正をどうするかが問題となつた。調査とか計算とかの縦割りにするか、エネルギー別の横割りにするかで議論があつたが、具体案については、活動の実状になるべ

く副司方向で、核データ・グループの幹事で中島委員を中心に検討することになった。

3-b 41年度委員会のメンバー編成について、(主査)

当委員会は(1)旅費の予算がひじょうに限られているので委員総数は増さないようにする。

(2)原研に予算がついてくる関係上運営委員会は所内所外の委員数を同数にする。という条件を勘案して、新旧の入れ替えを考えたいと主査より要望が出され、討議の結果、下記のように決定した。

(解職、解任)

杉江 淳、仲本秀四郎、片瀬 彬、浅見 明、都甲泰正

(新規委嘱・任命)

安 成弘(運営委)、浜口由和(運営委)

更田豊治郎(運営委)、長山泰介(運営委)

松延広幸(核データ・グループ)

西村和明() (4月帰国復職後)

大久保牧夫()

土橋敏一郎(炉定数グループ)

坂田 肇()

飯泉 仁(核データ・グループ)

中村 久(富士電気)(核データ・グループ)

3-c 41年度実行計画について(主査)

配布リスト7により報告。とくに質疑はなかつた。

4-a JNDC Newsletter 試作版について(続)配布リストは、グループ幹事に1任された。

4-b 海外情報について

今年海外において開催が予定される会議、セミナー等の報告があり、例えば9月12日-17日に米テネシー州Gatlinburgで行なわれる

International Conference on Nuclear Physics 等も、
Newsletter の試作版に含むことになった。

5. 炉定数 format について

- ・ 前回の会議で懸案となつた炉定数グループの format 採用の問題は、昨
12月24日東海において炉定数・調査 joint-meeting の準備委員の会
合をもち、「時間的制約等の理由により、ENDF を採用することは止む
を得ないが、炉定数グループで採用の可否を確認するよう」に勧告された
ため、第9回の炉定数の会合に提議され確認された旨、桂木委員より報告
された。

- ・ joint-subgroup の問題点としては、JNDF の検討があるが、桂木
委員からは、炉定数グループにある程度の実績があつてから joint をして
いくのがもつとも効果的であるため、もう少し時期を待ちたいという意見
があつた。

41年度の見通しについては、はじめは data の plotting の成果が
出てくるので、その後に調査グループと、コンタクトをもちたいとのこと
であつた。joint-subgroup の準備会が有名無実であつたから解散
した方がよいという意見（五十嵐委員）もあつたが、結果において準備会
無視の形になつた経緯についての説明が桂木委員よりあり、準備会はしば
らく情勢待ちという形で存続することになった。

- ・ そのあと ENDF について evaluation の意味に調査グループで行な
うようないみの evaluation と炉物理にかなり偏した evaluation とが
あり、そのいみでも、今回炉定数グループの手がける plotting の結果
と BNL 325 2nd, ed. Suppl. 2 との照合でいかなる evalua-
tion がなされているかの1つの手がかりが得られるという見通しものべられた。
- ・ なお桂木委員より、ENDF Newsletter 巻 2 が2月中旬ごろ送付
されてきた旨報告された。service routine ができ上つたことが書か

れているとのことである。

この件についてはChernick 発桂木委員宛の手紙にも述べられており、入手方についても述べられているとのことである。

- ・ JNDF としては、master library を目指している。

データを1本の曲線にするためには evaluation が必要となり大きな仕事になる。(桂木委員)

6-a EANDC への参加実現と第9回会議について

- ・ 主査からEANDC の会議の主な議題の1つである stable isotope と fissile material 入手の希望を日本から出す件では、原研核物理研と、九大からそれぞれ要望が出ている旨報告があつた。
- ・ 次にこの会議では cross section の request のリストを毎回各国から出すようで、日本にも提出するよう(3月5日メ切り)いわれていたが、われわれはまだそれほどの段階に行っていないとINDSWG の第4回会議の際も中間報告がしてあるが、これについては、炉定数・調査両グループの合同会議(3月3日)に討議していただく予定である

(主査)

- ・ 日本委員の参加実現と委員の指名について

EANDC への日本委員の受入れについては昨年11月下旬のENEAの運営委員会で承認されたとの情報が入つた。委員の指名については原子力局より原研理事長に照会があり同理事長は百田主査を指名する旨回答したとのことである。この点につき事後承認が求められたが(主査)全員異議はなかつた。メンバーの任期は2年であるので、次回からは事前に討議したいという補足意見があつた。(主査)

6-b EANDC Documents Distribution List について

IAEA の文書の配布先リストは、2年ほど以前に当委員会で5名指名したが、EANDC のばあいは、枠が少し大きい。委員会としてリ

ストの案を作成して、それぞれの方に御承認が得られるように手配中であると説明された。(主査)

総じて、核物理の関係の人が多くなっているが、これは同様な EACRP (European - American Committee on Reactor Physics) の方でもこのようなリストを作成しているためである(主査)

7. INDSWG の態勢変更について(資料 11-P,60 参照)

発足後数年を経て創成期の使命はほぼ達せられたので、態勢の改革が必要であるという声が出ている。従来の advisory committee という機能のみでなく information の交換という重要な仕事が軌道にのつてきたので、常置的な機能をもたすべきであるという機運がたかまつている。しかし具体化ということになると、旅費の負担等事務的な点でかなり難点が挙げられ、目下各国の態度打診の段階であるという説明があつた。(主査)

なお常置委員会になるばあい、改めてわが国の代表の指名依頼がくることが考えられるので、この点考慮しておいていただきたい旨述べられた。

(主査)

8. その他

8-a 39年度の活動としてファースト・グループが行なつた計算のデータ表が、IBMに保管中であり、この取り扱いについて五十嵐委員より提議されたが、原研核物理特研内のシグマ資料室に保管することになつた。

8-b 40年度 41年度のシグマ委員会の人員問題について質問(五十嵐委員)があり、主査より、40年度当初には確保されていたが、ついで研究室に欠員ができたということになり、その後、欠員ができて補完できないという状態になつた。また、41年度の見通しも明るくなく、客員研究員としては中島委員が引き続き来所していただける見通しで、事務関係で1名つくよう交渉中である。

データ・センターの必要性も、外部からも喧伝して、関心をたかめていく必要があるので御協力いただきたいとの回答および要望があつた。

- この問題に関連して①会議費、旅費が極度に制約を受けて、活動的に大いに支障を来している（坂島委員）
- ②われわれの目標は当初から委員会とデータセンターの2つであるのに、センターの実現性が大へん望み薄というのでは、委員会の運営も考えなおすべきではないかという意見（安氏）も出たが、これについては、はじめの見通しほどのペースやスケールではないが、中島さんの参加や、アルバイトの確保もでき、当初の予想の $\frac{1}{10}$ ～ $\frac{1}{3}$ くらいのは実現して、前進の方向にあるという意見もあつた。
- 原研内部からは人員をシグマの方に動員しすぎるといふ批判があり、外部ではもつと原研の人間がしつかりしないのでは長続きしないのではないかという風で、現状は双方の側全体にムリがいつている。積極的な Volunteer でもいれば力も出るが、specialist を新人から養成するというのでは現在では大変な難事であるという意見もあつた。

8-c 安委員より、フランスの大学関係で核データ関係の情報交換を希望している、とくに Cr と Ni の thermal - fast に亘る cross section の情報提供を御考慮いただきたいと提案があつた。

9 次回会合 - 幹事会で決められることになつた。

議題として以下が挙げられた。

- (i) EANDC の準備
- (ii) 42年度概算要求
- (iii) 新年度委員リストの承認

以上